第 20 号

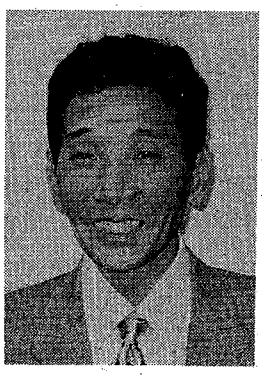
あ～す・れっく

日資連界報

日本再生資源事業協同組合連合会
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-10 4F
TEL 03（3295）8551
FAX 03（3295）8552
発行人　福田啓治
編集人　佐藤和夫
印　刷　㈱資源新報社

会長あいさつ

福田啓治



西暦二千年（平成十二年）の年頭に当り、謹んでお祝詞を申し上げます。皆様には、平素より日資連の運営にご協力、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

本年は、環境の二十一世紀と言われる新世紀に残すところ一年、資源循環型社会構築にも重要な年となることが確信されます。環境産業の一翼を担う我々資源リサイクル業界の社会的使命、役割はますます大きくなっており、時代に対応した業界の近代化努力が求められています。

経済と環境の共生が求められる時代にあって、地球環境の保全、限りある資源の次世代への継承のためにも、省資源、省エネルギーの観点から我々再資源化原料業界の社会的職能を充分に発揮して行く必要があります。

国、地方自治体行政の『ごみ減量化』リサイクル促進の施策は我々民間業界との関連性をますます強める傾向にありますが、日資連方式として定着しつつある広域市町村行政との連携による地区の資源リサイクルでは、地元組合が集団回収、委託収集、リサイクルセンターの業務運営委託事業等、業界機能を発揮して大きな実績を挙げるなど、地域産業としても高く評価されています。

再生資源利用促進法（平成三年）、廃棄物処理及び清掃法（平成四年）のリサイクル二法の施行に続き、平成九年には容器包装リサイクル法が一部施行（平成十二年に完全施行）され、さらに、平成十三年の家電リサイクル法の施行、自動車リサイクル法案、建設廃棄物リサイクル法案の審議など、資源循環型社会構築へ法体制が着々と整えられています。今まさに、製造事業者の社会的責務という観点から、川上から川下へリサイクル循環の仕組みづくりが必要となっています。さまざまな法整備に伴って、実践面では未だ幾つかの問題点を残しつつも、循環型経済システム構築に向けて社会的な方向性は確立すると言えるでしょう。

日資連は昨年三月、リサイクルシステム議員懇談会の衆・参議院議員の諸先生（甘利明代表幹事、大島章宏事務局長、浜田卓二郎幹事等）のご指導をいただき共催した資源循環型社会構築全国決起大会を基点に、通産、厚生、建設各省庁の原局担当者を始め、製紙業界、電炉業界の方々とのリサイクルシステム促進懇談会会議での鉄、紙の素材リサイクル循環の問題点の議論を進めてきました。今年こそ、有効な対応策が実行されることを期待したいものであります。

また、一昨年九月には、新聞社、販売店、製紙メーカー（製紙大手五社）、七都県市と我々リサイクル業界による「新聞リサイクル推進会議」が発足しました。古紙利用率の高い新聞用紙利用宣言を行うなど、製紙メーカーのDIP（脱墨パルプ）設備体制の増強、年間百二十万トンを超える古紙需要拡大等、古紙の需給改善にも大いに貢献できるものと自負しております。しかしながら、引き続き古紙価格の正常化が最大の課題の一つであることには変わりありません。

一方、鉄屑問題についても電炉製品の丸棒鋼がトン二万円台という常識を下回る安値販価の現状にあって、電炉業界も、我々再資源化業界もかつてない苦しい時代を迎えております。今こそ国も、企業も、社会的な役割分担を果たし、真の意味での鉄源リサイクル循環を図るべきです。

関係業界の社会性ある対応と、電炉製品の需要業界である建設業界のご協力はもとより、建設省、通産省、厚生省の各省のリサイクル循環への適正など指導をお願い致したいと存じます。

リサイクル実践業界である日資連はもとより、再生資源各専門業界もグローバルな視点を持ち、業界を一つに、安定、円滑なリサイクルの実践に取り組む必要があります。各委員会活動のさらなる活性化、次代を担う後継者育成への取り組みが必要です。『働き甲斐があり』『魅力ある業界造り』こそ、二十一世紀へ通じる日資連、リサイクル実践業界の基本的方向であると確信しています。

最後に、国、地方自治体の行政当局の方々、地域市民団体の方々、リサイクルシステム議員懇談会の諸先生、全国業界の皆さんに対し、真の資源循環型社会構築への一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせて戴きます。

＝リサイクルシステム議員懇談会事務局長＝

今年を資源循環社会建設元年に!!

衆議院議員　大畠章宏

明けましておめでとうございます。昨年も日資連みなさまには、ご理解とご支援をいただきありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年は、当初から、古紙や鉄の循環に危機があり、大変な一年でした。しかし、関係者の皆さんの懸命なご努力により、危機を乗り切ることが出来ました。そのような経験を踏まえ、今年は、「資源循環社会建設元年」にしなければと考えます。それは、地域の実社会を預かる地方自治体から悲鳴に近い強い要請を受けはじめたからでもあります。すなわち、「ごみ処分場が、全国平均であと一年半しか持たない。特に、私の自治体では、半年しかもちません。処分ごみの減量化のためにも、循環型社会を至急築いていただきたい。」という要請内容に代表されます。このことは、もう数年前から予測されていましたが、それが全国各地で直面する現実課題として一斉に浮上しました。これまでの経緯を振り返りますと、特に、ペットボトルなどを含む容器包装対策、家電品対策、再生紙の商品化など資源循環の促進に努力してきました。これからは賞味期限切れの食品などコンビニなどから毎日大量に排出される残飯に着目し、肥料や飼料にして再利用する循環システムを構築しなければと考えます。いずれにしても、「大量生産、大量消費、大量廃棄」の時代は完全に終わりにしなければ、地方自治体は持ちません。日本の未来がないといっても過言ではないと考えます。あらゆる分野で、「循環型社会」の構築に向けて、すべての既存システムを総見直しし、循環型社会システムに切り替えていかなければなりません。そのような意味からも、日資連のみなさまは、これまでも再生資源循環事業に取り組まれ、豊富な経験をお持ちであります。今まさに、静脈産業へ社会の熱い注目が集まり始めました。今年も、皆さんと力を合わせ「循環型社会建設元年」とするために、がんばります。皆さんのお力をお貸しください。皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

年頭所感

厚生省リサイクル推進室長　泉　真

明けましておめでとうございます。新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

廃棄物の排出量の増大、最終処分場の逼迫等、廃棄物の処理をめぐる問題は、年々重要性を増しております。厚生省としては、これまでのような「燃やして埋める」廃棄物処理から脱却し、まず、廃棄物の発生抑制とリサイクルを進めることを基本とする循環型社会への転換を目指し、様々な施策を進めています。

一般廃棄物のリサイクルを具体的に義務づけた最初の法律である容器包装リサイクル法が制定され、平成九年度より本格施行されています。現在対象となっているガラスびん・ペットボトル等については、分別収集を行う市町村、収集量とも次第に増加する傾向にあるため、今後、さらなる再商品化能力の増強を行い、再商品化が円滑に行われるよう、関係各省と連携を図りながら努めてまいりたいと考えております。

さらに、本年四月からは、分別収集の対象として、すべての紙製容器包装及びプラスチック製容器包装が加わることとなります。これらは、容器包装廃棄物の中でも量が多く、リサイクルによる廃棄物減量効果の高いものであり、また、従来、市町村等による分別収集やリサイクルの事例が殆どなかったため、新たな取組による成果が期待されるところです。

一方、家電リサイクル法については、平成十三年四月よりエアコン、テレビ、冷蔵庫及び洗濯機の四品目を対象として、小売業者等による収集・運搬、製造業者等によるリサイクルを行うこととし、重量で五〇％～六〇％を上回るリサイクルの実施、冷媒フロンの回収等が義務づけられました。今後は、省令等を作成し本格施行に向けての準備を進めてまいります。

また、平成十一年九月には、廃棄物の減量化の目標量が設定され、一般廃棄物、産業廃棄物とも、平成二十二年度までに、最終処分量を平成八年度の半分にまで削減することとしています。このため、容器包装リサイクル法及び家電リサイクル法を円滑に施行するとともに、廃棄物の減量化をさらに推進するための新たな方策を検討する等、必要な施策の推進に努めることとしています。

この他、当室では、都道府県及び市町村に対するリサイクル情報の提供・共有システムの構築、リサイクルに関する技術開発への支援方策等様々な施策を講じていくこととしております。

廃棄物の減量、循環型社会の構築においては、社会全体の協力・支援体制が不可欠です。厚生省としては、今後とも、関係各省と協力しながら、鋭意取り組んでいくこととしています。皆様方には、引き続きご理解、ご協力をお願いするとともに、本年が皆様方に実り多い年であることを祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

＝古紙問題市民行動ネットワーク＝

今こそ必要なことは何か？

中村正子

古紙ネットが発足して以来七年、ほんの少しでも「持続可能な古紙循環システム」づくりに向け事態が動いただろうか？

否。二十三区への移管にともなう東京都の古紙直営回収実施などの現状のなかで、事態はさらに混迷を深めているのではないか。

大量生産システムによるこれまでの延長では、持続可能な社会は不可能なことは明らかだ。税収が減る一方の自治体も危機宣言をしているが、従来のシステムを本気で抜本的に変えようとは、国も自治体も考えていない。

それどころか、厚生省などの動向を見ても、これまでの権益の巻き返しに必死である。東京都の直営回収にしても、筋論などを吹っ飛ばした官の雇用争奪戦である。

時代に逆行する力学が働いている。

しかし、大状況としては、ヨーロッパを中心に、拡大生産者責任の考えがさらに進むだろう。処理・処分に税金を使わない、受益者負担の仕組みがさらに進行するにちがいない。EUに輸出しようと思ったら、そうしたルールを踏まえるしかなくなる。

だが、日本の国内では、まだまだ、目先の利益しか考えない経済界を筆頭に、いかに現状を変えずにしがみつくだろう。

持続可能な古紙循環システムの条件としては、再生紙の需要増大と静脈コストの分担がある。

「再生紙を生産したり購入するほどトクをする経済誘導の仕組みや、コストをいかに分担するかなどの検討をどう進めたらいいのだろうか」などと考えてきたのに、錯綜する現状の中で、そうした普遍的な論議など吹き飛んでいきつつある気がしてならない。

しかし、こんな今だからこそ、日資連は業界団体として、個別利害を超えた業界の見取り図や時代を踏まえた戦略・戦術を提示する必要があると私は思う。

守りの現状追随からは何も生まれない。大きな視野から業界を見返し、あいまいな「資源循環型社会」に具体的なイメージを与え得る持続可能なシステムを広く社会に提示することが必要なのではないだろうか。

新年を迎えて

関東資源回収組合連合会 会長 倉林喜一郎

平成十二年新春の御祝辞を申し上げます。

平素は関資連各会員の皆様と関係行政、関連業界の皆様には、大変あたたかいご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

二十一世紀にあと一年と迫って来ている中で、平成三年のリサイクル二法、また平成七年の「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律」が制定、施行されたのに続き、廃自動車・廃家電リサイクル法も制定されて関係各省、地方自治体、経済団体、個別企業、市民団体等により各使用商品ごとのリサイクルシステム形成に向けた取り組みが展開されています。

このような環境の変化の中で、我々の使命と役割が増し、廃棄物行政で示す法律的内容には我々業界の明確な位置付けが無いまま法律が施行され、我々を取り巻く環境は厳しいものとなっており、社会的役割を声を大にして行かなければならないと思っております。

こうした状況下において関資連と致しましては、各単協の組織整備を一刻も早く進め、都県環境行政との更なる連携の下に各市町村環境行政との協力関係を強化し、地域住民との協力体制を取り、業界のリサイクル機能を十二分に発揮して地域産業とともに地域社会との連携を深める時代に入っていると思っております。

また全国においても、一刻も早く全体の整備を進めるべく、日資連の中核組織として自覚と責任の下、日資連とともに我々の業界の位置付けを明確にしなければならないと思っております。

まだまだ日本経済の見通しが立て難い経済状況にあるが、景気のせいにするばかりでは問題は解決致しません。その時々での対応が必要であり、各会員にはその役割を果たす努力が必要であると思っております。リサイクル実践業界として二十一世紀の「環境の世紀」への宿命であり、専門的ノウハウを活かして事業を図っていき、自助努力と合わせて業界が一つに結集し、組織・組合員の英知と協力の下に業界の前進を図っていきたいと思っております。

この社会的使命遂行の為、関資連各位のご協力ご支援をお願い申し上げ、また、皆様方のご繁栄とご健勝を祈念し新年のご挨拶とさせて頂きます。

年頭所感

副会長 平林久一

平成十二年の新春を迎え全国の皆様にご祝詞を申し上げます。

本年は、業界にとって、そして日本全国にとって、勝負の年となることが予想されます。まず最終処分場の確保が、これからますます難しくなるでしょう。処理費用の高騰が予想されます。また、地球の温暖化阻止に向けて行動しなければなりません。リサイクル循環型社会の建設が、いよいよ急務となりました。

この状況に対処できるのは、われわれ再生資源業界しかありません。リサイクルについて高い技術をもつ当業界が発展し、技術を高め、世に広く認識されなければなりません。それには、団結が必要です。一事業者では出来ない仕事も、組合を形成すれば可能となるのと同様に、一組合や一都道府県連合会では不可能な事業も、日資連で対応すれば可能となるのです。

例えば、昨年、日資連では、リサイクル循環品物をどけだけリサイクルしたかを、集団回収を行っている子供さんから自治体や企業の担当者の方まで、伝達し証明する議論をしていただきました。

また、日資連として、リサイクル化証明書を発行致しました。これまでは、われわれが汗を流してリサイクルを行っても、それを証明する手段はありませんでした。しかし、このリサイクル化証明書により、われわれがどの品物を合わせれば、解決されるのです。日資連傘下の会員の皆様、そして未加入の同業者の皆様、力を合わせて問題解決に向けて、何か新しいことをやりましょう。

ことが可能となったのです。

さらに。去る十月八日、日資連ピン・カレット部会が発足し、第一回会議が開催されました。議場では、カレットの余剰問題に対して、道路工事での基礎への使用等の対応策が討議されました。今後、余剰問題解決への大きな一歩となるでしょう。

このように、団結すればさまざまな事業が可能となります。当業界の抱える諸問題も、知恵を出し合い、話し合い、力を合わせれば、解決されるのです。日資連傘下の会員の皆様、そして未加入の同業者の皆様、力を合わせて問題解決に向けて、何か新しいことをやりましょう。

地球を守る新たなリサイクルの構築を!!

副会長 紺野武郎

二千年の記念すべき新春を迎え心からお慶び申し上げます。

昨年は、東資協の創立五十周年式典に全国の日資連役員の皆様にご臨席頂き、身に余るご奉賀を賜りまして誠に有難うございました。

二十世紀後半は、地球環境破壊の時代とも言われていますが、特にこの十年間は各種の法律やルールなど、資源循環器系統に、多種多用の生命維持装置を施さなければならない末期的症状となってきたようです。

瀕死の状態の肝臓や腎臓に、塩分・糖分・アルコール、果ては悪玉コレステロールの大量に含まれた高栄養分を絶え間なく補給してきた結果だと思います。

新世紀を迎えるにあたり、静脈産業の毛細管としてリサイクル事業の最前線を担う我が日資連としても、今までの常識が非常識でなかったかを検索し、勇気ある発想の転換を試みる年と位置付けたいものです。

安全にそして清潔にを第一にして作られてきた都市機能や生活物資が、そしてその廃棄物処理が、環境や生態系に多大な影響を及ぼし始めたことは、ダイオキシンや環境ホルモン、地球温暖化などを見ても明らかです。

廃棄物は、自治体が速やかに処理してくれる、リサイクルも簡単な分別だけで自動的に処理してくれるから、そこには莫大なコストと新たな資源の浪費があることも忘れてしまい、製造者責務も失われてしまいます。

新年度も国は、景気浮揚策にまたも二十三兆円もの赤字国債を加えた八十五兆円の予算を注ぎ込み、消費や生産を助長し、大量の廃棄物処理はみな市町村におしつけてしまう訳です。その結果二十一世紀の子孫には、借金とごみ以外何も残せないとなれば、これ程非常識な政策はないと言うべきです。

しかし、ただ生産抑制や消費節減だけを呼び掛けて産業の衰退を即すのではなく、徹底して再生可能な素材を使った動脈産業と木目細かな静脈産業拡大の研究に、国の予算を割いて頂きたい。

容器包装リサイクル法は、多くの不備が指摘されています。法律で無理にリサイクル推進するよりも、容器そのものの発想の転換を考える時がきているのではないかと思います。

例えば詰め替え容器とリターナブル容器を組み合わせて、軽薄で極力害にならないカートリッジ容器と、カートリッジの中身に関係なく何度でも使える軽くて丈夫な外容器を組み合わせて循環させる容器革命は不可能でしょうか。

自動車産業でも家電メーカーでもリサイクルが義務づけられ、ごみにならない再利用可能な部品の使用を具体化しようとしています。これを法律で決めるのではなく、国民の総意で全ての物に適応して頂くよう運動しなければなりません。

誰もが消費者でありごみ生産者なのだから、生産者と消費者に分けて論ずるのは非常識、常に持続可能な循環型社会の実現に万人が努力する年としたいものです。

以上今年の初夢でした。正夢となりますように!!

【加入組合紹介】

◎石見資源リサイクル事業協同組合
▽田城幸雄代表理事
▽島根県益田市あけぼの東町11－10
▽電　話＝0856－22－1128
　FAX＝0856－22－1244

◎築豊地区資源リサイクル事業協同組合
▽佐藤基幸理事長
▽福岡県直方市大字頓野3－36－1
▽電　話＝0949－22－8081
　FAX＝0949－28－4812

年頭のご挨拶

奈良県資源回収事業協同組合理事長　西本　仁

輝かしい新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年は、西暦二〇〇〇年、つまりミレニアム（千年紀）の年にあたります。干支で言えば、辰の年ということになります。辰年は龍とも言われ瑞兆（めでたい兆し）とされています。平成十二年が私共再生資源業界にとって、さらなる飛躍の年でありたい期待し願っています。

さて、昨年一年間も大変厳しい年でありました。特に我々業界にとって長いあいだ古紙を始め、鉄屑、非鉄、その他原料くず単価が低迷を続けており、もはや業界の体力は、限界を超えていると思います。我々再生資源業界は、我が国の高度経済成長期に、電炉、製紙、製瓶メーカー等への資源確保に積極的に貢献して来たのであります。我々業界に関係している者として、このことに強い自負心をもっております。

しかしながら、バブル経済が崩壊した後の長引く不況は、業界低迷の原因の一つとして考えられますが、他方では、リサイクル法を始め新しく制定された容器リサイクル法や、廃家電リサイクル法等の基本理念が、再生資源の安定確保というよりも、リサイクル環境保全といったことに、重点が移された事によるものではないかと考えます。今後予想される、廃棄物処理法の大幅な改正などの動きを注視して行くことが、大事になって来るのではないかと思います。

ところで、今、業界の構造変化が急速に進んでおりますが、中でも流通経路の短縮化の動きは特に厳しいものがあります。これまで一貫して、我々の業界が確保していた再生資源の「卸し機能」が今や、十分に機能しなくなって来ている事が挙げられます。

これに対応すべく全国の組合員の皆さんも個々において企業努力に励んでおられるところでありますが、状況はきわめて厳しいというのが現状であります。環境の変化に乗り遅れないように、あらゆる情報を集め、いつでも対応できる態勢を取っておくことも大事でしょうが、今はこれまでと全く違った経営環境の中では、ハッキリとして方向が確認できるまで、しばらく余裕を持ってこの状況を眺めるだけの、精神的ゆとりが必要ではないでしょうか。

終わりに際し、厳しい経営環境下ではありますが、組合員の皆様におかれましては、新しい時代に向けてさらに一層、ご活躍下さることをご祈念申し上げて、ご挨拶と致します。

2000年を迎えて

大阪府再生資源事業協同組合理事長　入江金男

謹んで平成十二年の新年を寿ぎ心よりお祝詞申し上げます。

平素は会員皆さん、関係行政、関連業界の皆さんには大資協運営に暖かいご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年の資源回収業界は、主要商品の古紙、鉄屑等の市況は低価格が続き回収業者の離散、また倒産が多くあり、大変な一年でした。

大資協では十年度の活路開拓調査事業、十一年度の実現化事業と青年部の若い会員が中央会の皆様のご指導により、やっとインターネットのホームページの作成までこぎつけました。青年部の会員は仕事で疲れていても十八時には集合して二十一時すぎまで月一回の会議で色々と協議を重ね、組合活動としての活路開拓事業に取り組んできました。

これからはホームページを国内はもとより世界の多くの人達にアクセスいただき、再生資源業界の実態を認識していただける事と楽しみにしております。

このように我々再生資源業界も若い力が新しい事にチャレンジしていくことは、これからの業界としては新分野がひらけてくるものと確信しております。

今年は、容器包装リサイクル法に基づいて紙製および プラスチック製容器包装の分別収集、再商品化が実施されるほか、来年には家電リサイクル法が施行されるなど、廃棄物行政は大きく変わろうとしています。

われわれ再生資源業界にとって、これらを追い風にすることができるか、異業種の参入を許すのか、まさに正念場になるといっても過言ではありません。

平成十二年度国家予算も歳入の三〇％強を赤字国際で賄うという異常事態の中で、地方自治体を中心に民間企業の参入も現実的な課題となってまいりました。そのためには、行政をはじめ、市民の方々の協力が不可欠です。

「リサイクルの時代」といわれて、かなりの年月が経過したものの、われわれの業界は一向に時代の要請に応えられておりません。今年こそ、日本再生資源事業協同組合連合会を核として、各単協がお互いに英知を絞り、協力しあって新しい時代を切り開いていこうではありませんか。

終りにあたり、再生資源業界のますますの発展を願って、新年のご挨拶とさせていただきます。

ホームページ開設

大資協が活路開拓で新事業

大阪府再生資源事業協同組合（入江金男理事長）では、大阪府中小企業団体中央会の指導のもと、平成十年度の中小企業活路開拓調査事業、平成十一年度活路開拓実現化事業として二年間にわたり組合活性化の「新技術導入及び新市場の開拓」に取り組んできた。

平成十二年一月二十日にホームページを開設し、アクセスは下記の通り。

当組合では、これに伴い取引先など関係者からの感想、意見を伺うほか、アンケートに答えてもらう「評価事業」を行い、二月に「求評事業」を完了する予定となっており、関係者からアクセスを求めている。

業界の新しい体制でのホームページ立ち上げ。今後の参考としてアクセスされては…。

▽ホームアドレス
http／／www.daisikyo／or／jp
▽Ｅメール
recycle@daisikyo.or.jp
▽ロケーション
http／／www.daisikyo.or.jp／soudan／thanks. htm

青年部が郡山で定例会

近藤理事長、恩田氏、小松氏が激励

日本再生資源事業協同組合連合会青年部（横田一夫部長）では、去る十一月二十七日に福島県郡山市のチサンホテル郡山において、福島県青年部設営による青年部定例連絡会を開催した。

今回の定例会では、前回から各地区の報告が事前に提出され資料として配布。また、各単協から議案事項を募集し意義のある連絡会を推進、群馬県、奈良県、山形県、栃木県、千葉県から議案等が寄せられた。

横田部長の若さあふれる挨拶に続き、東資連青年部会長の高崎秀雄氏より歓迎を含めた挨拶が行われた。連絡会の議長を神奈川県の山岡秀明部長を選出し、日資連活動報告、前回の確認事項、各地区からの報告・議案を審議し、次回定例会を西日本ブロックで開催することを決めた。

【近藤理事長の言葉】

連絡会冒頭では、地元福島県再生資源商工組合の近藤準一理事長より「①現状に疑問、不満をもつこと（生き残るために）、②批判する勇気（的確な分析能力のため）、③チャレンジャー精神、挑戦（若さ、表現力）を青年部活動に取り入れ、組織を生かすために、自ら動いて機能させてください」（要約）と青年部員にエールが贈られた。

【講演】

連絡会終了後、株式会社出羽環境の恩田二郎氏（廃棄物処理・リサイクル制度の変遷、エコビジネスの事例）、株式会社資源新報社の小松崇明氏（古紙業界の動き、家電リサイクル、容リ法のセカンドステージ、自動車リサイクル）より「生き残るため」の講演があった。この後、情報交換を含めた懇親会が開かれ、活発な青年部部員が前向きな業の取り組みをを話合い、将来の業界発展を祈念した。

神奈川県資源回収商業協同組合
理事長　萩原右一
〒220-0023 横浜市西区平沼１－40－17 モンテベルデ横浜311号室
TEL 045(313)6100 ・ FAX 045(313)6161

東京都資源回収事業協同組合
理事長　紺野武郎
〒101-0061 千代田区三崎町２－21－１ 東京資源会館
TEL 03(3263)3676 ・ FAX 03(3263)3679

株式会社 サンウエスパ
代表取締役　原　幸男
〒504-0811 岐阜市若福町７－５
TEL 058(231)2362・FAX 058(294)2994

奈良県資源回収事業協同組合
理事長　西本　仁
〒630-0226 生駒市小平尾町１４９１－１
TEL 0743(77)6017 ・ FAX 0743(77)6886

大阪府再生資源事業協同組合
理事長　入江金男
〒567-0865 大阪府茨木市横江２－９－45
TEL 0726(30)6730 ・ FAX 0726(30)6731

岡山再生資源事業協同組合
理事長　平林久一
〒700-093 岡山市下中野347－104 ヒラキンビル
TEL 086(241)6943 ・ FAX 086(241)8485

栃木県資源回収事業協同組合
理事長　阿久津　守光
〒322-0035 鹿沼市朝日町１９５２－２
TEL 0289(62)2239 ・ FAX 0289(62)2239

千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会
会長　倉林喜一郎
〒260-0015 千葉市中央区富士見２－22－６ 富士ビル５階
TEL 043(227)8273 ・ FAX 043(227)2033

埼玉県再生資源事業協同組合
理事長　川尻定夫
〒338-0826 浦和市大久保領家３４３－７
TEL 048(852)9048 ・ FAX 048(852)9075

年頭にあたって

広報委員長　佐藤和夫

西暦二〇〇〇年の新年明けましておめでとうございます。

新世紀を目前に皆様方も様々な思いを胸に記念の年をお迎えのことと存じます。

お陰様で「あーす・れっく」も発刊二十号となり、西暦二〇〇〇年と絶妙のタイミングとなりました。さかのぼって見ましたところ、旧名の「日資連界報」第二号（平成五年十月三十日）でニックネームの募集を呼びかけています。ここでは集団回収における雑誌の逆有償を巡って各地の情報が寄せられ、特に岐阜再生事業協組が岐阜市議会で雑誌の逆有償を得たと報道されています。第三号で「あーす・れっく」に決定とあって、第四号のトップには当時の土井たか子衆議院議長と金子昌明会長（現名誉会長）が握手する「古紙回収システムの存続」を訴える誓願の場面。四面には過積載施行が出ています。

平成六年八月には組織強化を目指して、島取県米子市で拡大理事会を開催と第五号で報じています。阪神淡路大震災は第六号、被災地ではつきあいの濃い薄いに拘らず業者間で助け合っている様子がうかがえます。第七号は「容器包装リサイクル法」の解説を取り上げ、施行猶予期間の間に組織の拡大が不可欠と訴えている。第十一号は現・福田啓治理事長が新理事長に就任した熱海での第二十四回総会がトップ記事。第十四号では古紙の余剰問題で新聞各社に公開状を発した回答集を掲載、設問の一つには「折り込み チラシを中止するか」、「できるだけ新聞紙に統一する事は出来ませんか」とあって時代の変化を感じ取ることが出来ます。

平成十一年三月に開催された『リサイクル循環型社会構築全国決起大会』はまだ記憶に新しいところ。古紙、スクラップ等の価格は戦後最低と厳しい内容の第十七号。第十八号となると各県の青年部からインターネット、ホームページという文字が飛び込んできます。そしてリサイクル化証明書の作成。

時代の変化とスピードは予想を超え、容赦なく我々を襲ってくる。ますます厳しさに打ち勝つ器量が求められる時代となってきました。我々の「あーす・れっく」も皆様方の要請に応えられるよう委員一同一致団結していきますので、ご支援ご愛読の程、何卒よろしく御願い申し上げます。

みんなでつくったトイレットペーパー
トータルリサイクル第一歩

明けましておめでとうございます。二〇〇〇年を迎え新たな気持ちをもって、組合事業に取り組んでいきたいと思います。

二十一世紀を目前に控え、千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会は「限りある資源を大切にしたい」をキャッチフレーズに、千葉県連によって『みんなでつくったトイレットペーパー』の共同受注販売をはじめました。

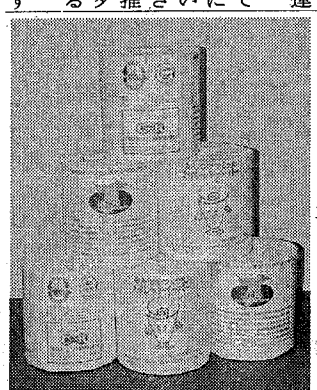
これは、静脈産業としての千葉県内の業者が組合事業、すなわち各市町村行政と市民と連携した体制で資源循環型社会構築のためにリサイクル推進にあたり、千葉県連を広く一般に広げようということと、製紙メーカーの再商品化したものを県民の皆様に使っていただき、リサイクル意識向上につなげるものです。

私たちは古紙回収を通じて、地域住民の方々と共にリサイクル社会を目指しています。その取り組んできた結果として、全国でも資源回収率一位という実績をおさめました。こうした中、よりリサイクル意識を向上を目指し、県民の皆様のご理解とご協力の連携による、県内で回収した古紙を原料としたトイレットペーパーを商品化する運びとなりました。

古紙を回収するだけでなく、それがどのように生まれ変わり使われていくかを考え、環境にやさしいリサイクル商品の推進・PRするなどトータルリサイクルを確立する第一歩だと考えます。

我が国の企業は、ますます厳しい国際競争にさらされてきます。その中で、マネージメントの最重要課題として「環境への取り組み」「品質保証システムの確立」が大きくクローズアップされてきました。企業理念の中に「環境」と「品質」を入れることが、二十一世紀の国際企業として支持され、生き残る基本戦略です。

千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会では、新しいシステムネットワークを構築し、業界と業界の境がとれてきた今、ただ選ぶだけではなく異業種交流の推進とイニシアチブそしてホスピタリティをもって、新しい組合事業を展開していきたいと思います。



《MADE IN 千葉県連》

＝回収最前線＝
株式会社タヤマ②
地域独自のコンテナ回収方式

前号でも取り上げた、三重県津市の株式会社タヤマのコンテナボックスを回収拠点に置き、フックロール（ロールオン）車で引き上げてヤードに持ち込む集団回収方式についての取材報告を。

津市の集団回収も地方都市特有の小規模で週末、それも午前中に集中する傾向にあるそうだ。

現在の古紙の低価格の下では、いかに回収効率を上げるかが、鍵となる。

ましてや津市では、回収団体に対しての助成金はあるが、業者に対する助成はないそうだ。

株式会社タヤマでは、現在二つのコンテナ（積載七t）を、効率良く回転させる事で、一日に七団体程度の集団回収をこなしている。コンテナを団体指定の場所に据え置き、もう一つのコンテナを他の団体指定の場所に据え置く。

積み込みは、原則として団体さんにお願いしているが、ろーるおん形式のため高所に荷物を差し上げる必要もなく、またコンテナの外壁が高いため丁寧に積み込まなくても荷崩れの心配もない。

積み込みの現場を見学させてもらったが、子供達も楽しそうに手伝っていた。

さて、二つ目のコンテナを据え置いて空になった車は、パッカー車と一緒に最初のコンテナを引取りに行く。パッカー車に段ボールを巻き込み、団体さんに積んでもらった新聞を多少手直しし、必要に応じてロープ掛けをしてヤードに持ち込む。

パッカー車とコンテナをともにダンプ降ろしして、三か所目の団体の指定場所にコンテナを据え置き、二つ目のコンテナを引取りに行く。以後これの繰り返し。

運転手二人と二台の車両と二つのコンテナが実に効率良く回転してた。

しかし、この回収方式が他地域、他業者に取り入れられるには問題点が幾つかあると思う。

一点目は、コンテナのウィークデイの活用と保管をどうするか。

地下の高い都市部では、保管費用も軽視できない。ましてや週末のみの使用に限られてはコストアップになってしまう。株式会社タヤマでは、鉄くずの回収に利用しているそうだ。

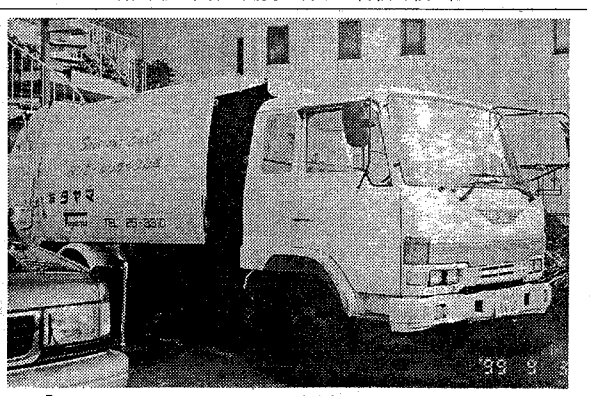
二点目は、雑誌が回収品目に加えられたときの問題点だ。津市では市内全域で分別回収（直営）が行われていることも影響して、採算割れしている雑誌は回収品目からほとんど除外されていた。団体さんの積み込み、ヤードでの荷降ろしを考慮すると、積み合わせは難しく、雑誌も回収しようとすると新たな車輌（2t クラスのロールオン）が理想か？）と運転手が必要になる。

そして三点目は、団体とのコミュニケーションと品質の問題点だ。

共に汗を流す事でコミュニケーションがとれる事は我々にとって最も重要だ。また、住民の皆さんに、分別の徹底をお願いし、指導する最良の機会は積み込み時ではないだろうか。回収業者が団体の役員さんに、一つ一つ手にとって「これは入れないで下さい」、「これは雑誌にして下さい」と、お願いして行くことが品質の向上につながっている。津市での新聞の分別は決して悪くはなかったが、この状態を維持して行くことは大変だろう。

追伸　きっと各地域、各業者が各自に見合った回収方式を力強く実践しているんだろうなと、山と海に囲まれた津の地で関西風の鰻を味わいながら思い出を巡らした。

地域住民と業者が連携し合って古紙を積み込む



「Save our Earth」㈱タヤマの段ボール回収車

【二月の主な行事】

▽二月九日…日資連合同委員会

▽二月十日…日資連ビン・カレット部会

▽二月十六～十七日…エコ・リサイクル二〇〇〇（東京ビックサイト）

▽二月十九日…栃木県資源回収事業協同組合青年部二十周年記念式典

▽二月二十～二十一日…関資連拡大理事会（栃木県）

▽二月二十五日…古紙循環プロジェクト（全原連事務所）

編集後記

第二〇号（新年特集号）発刊にあたり、ご多忙中にも拘らず、各方面より年頭所感を賜り、心から御礼申し上げます。

平成十二年（西暦二〇〇〇年）のスタートは、大阪、千葉の若手青年部による事業推進という時代に挑戦する意向がハッキリ伺え、明るい業界を目指し期待するところは大きいと思います。

経済不況、政治不審、数々の不祥事、犯罪低年齢化そして廃棄物の不適切処理と今までバブル景気の陰にあったものが表面化しています。明暗は自ら招くもの、自覚ある行動が未来を築きます。

本年は広報委員会一同、新たなる企画♪をもって、会員皆様と業界のために努力して参ります。